様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　５月 13 日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５６０６５２
研究課題名（和文）室町時代～江戸時代前期における建築工匠の系譜と活動形態に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Study of fundamentals of the genealogy of carpenters and their styles of activities during the periods of Muromachi, Azuchi-Momoyama and early Edo

研究代表者
浜島　一成（HAMAJIMA KAZUNARI）
日本大学・理工学部・研究員
研究者番号：８０４５１３１８

研究成果の概要（和文）：伊勢神宮や北野天満宮等の社寺で活躍した建築工匠の活動形態が、中世から近世にかけてどのように変化するかを、文献史料をもとに考察した。その結果、伊勢神宮や北野天満宮等では、豊臣秀吉が天正 15 年に出した大工職撤廃令にもかかわらず、同じ工匠家がその前後で活躍したことを明らかにした。例えば、伊勢神宮外宮に属した藤井姓を名乗る工匠家では、14 世紀後期から 17 世紀にかけて継続的に、伊勢神宮の工事に携わる。

研究成果の概要（英文）：Historical sources were consulted to see how the styles of the professional activities of the carpenters engaged specifically for Buddhist temples and Shinto shrines such as Ise Jingū and Kitano Tenmangū changed during the medieval and early modern age. This study revealed that construction jobs for these two major shrines were assumed by the same families of carpenters throughout these periods despite the control ordinance promulgated by Toyotomi Hideyoshi in 1587. In fact, the carpenters from the carpenter family Fujii having business relations with Gekū of Ise Jingū were successively engaged in construction work for Ise Jingū from the late 14th century to the 17th century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	500,000	150,000	650,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠
キーワード：室町時代、江戸時代、建築工匠、伊勢神宮、北野天満宮、大工職

１．研究開始当初の背景

建築工匠史研究は、建築史学にとどまらず関連領域で盛んに進められている。

（１）中世では、建築史学において、建築工匠の組織制度等に関する研究がある。他方、歴史学においては、戦前より社会経済史の分野で研究が進められ、その後、特に、大工職の形成・変質過程等について多くの研究蓄積がなされる。さらに、戦国大名の領国支配体制下における職人及びその組織の編成等の職人史研究が行われる。

（２）近世では、中世よりもはるかに多くの研究がなされる。建築史学に限っても、権力側からの大工支配（幕府京都御大工頭中井家関係）と、民間の大工組織の変遷（畿内・近江六ケ国大工組等）にその研究内容は大別される。また、近年、日本各地で活躍した建築工匠の活動が徐々に明らかにされつつある。

２．研究の目的

（１）日本における建築工匠史研究では、上述したように中世建築工匠史と近世建築工匠史が明確に分かれて研究が進められ、中世から近世への移行期に焦点をあてた研究は少ない。また、中世・近世にわたり活動した工匠の系譜等に関する研究も存在するが、それら研究は、近世に活躍した建築工匠の家系を中世まで遡るといった視点からの論稿であり、中世において活発に活動した建築工匠とはやや性格の異なるものといえる。

（２）研究代表者は、これまでに、東寺や伊勢神宮等の有力な寺院・神社において、中世を通じて活躍した建築工匠の系譜を明らかにしてきたが、その過程において、中世の建築工匠の家系が近世に至っても依然として存在している知見を幾つか得た。そして、それら工匠の家系については、未検討の部分が多く存在している。

（３）本研究では、中世において活発に活動した建築工匠の系譜やその活動形態が、中世後期から近世にかけてどのように変化していくのか、その過程を分析することを目的とする。

３．研究の方法

（１）時代区分

本研究では、時代を室町時代から江戸時代初期に限定する。室町時代では、応仁の乱前後の 15 世紀中期以降より、特定の工匠の家系が大工職を独占するようになる。特に、16 世紀後期には大工職が撤廃されたと指摘されるものの、伊勢神宮等では、これ以降も同じ家系の工匠が活動する。また、下限としては、幕府による作事禁令等が整備された 17 世紀末の元禄期頃を一応の目安とする。

（２）研究方法

室町時代から江戸時代初期に至る建築工匠史料が、伊勢神宮や北野天満宮等で確認されるため、それら史料の収集・整理・分析を下記のように行った。

①平成 19 年度

Ⅰ. 室町時代～江戸時代前期における建築工匠史料の収集。

イ. 寺社付属の図書館・資料館にて建築工匠史料の収集・整理：神宮文庫や東大寺図書館等。

ロ. 国公立資料館・図書館にて建築工匠史料の収集：京都府立総合資料館、京都市歴史資料館、国立公文書館等。

②平成 20 年度

Ⅰ. 平成 19 年度に続いて、建築工匠資料の収集。

Ⅱ. 平成 19・20 年度に収集した資料の分析・検討。

③平成 21 年度

Ⅰ. 補充調査。

Ⅱ. 平成 19～21 年度に収集した資料の分析・検討。

Ⅲ．研究成果報告書の作成。
各年度を通じて、研究内容を学会に随時発表。

４．研究成果
伊勢神宮や北野天満宮等で活躍した建築工匠の系譜や活動形態について、文献史料を中心に考察し、以下の点が明らかとなった。

（１）伊勢神宮では、式年遷宮が 15 世紀中期から 100 年以上にわたり中断し、その中断の後の 16 世紀後半に行われたものとして、永禄６年（1563）の外宮式年遷宮と天正 13 年（1585）の内・外両宮の式年遷宮がある。両工事では、造営費用が乏しいため、作所と神宮工の話し合いにより、まず造営工事全体の請負金額 3000 貫文が決められる。そして、永禄６年の造営工事では、正殿に関しては、重要な工事の区切りごとに、改めてそれぞれの請負額が決められ工事が進むが、正殿以外では、殿舎ごとに個別あるいは一括して、改めて請負金額が決められる。一方、天正 13 年の造営工事では、信長・秀吉等による造営費用の寄進により工事額が既に定められ、その工事額に合わせて、工事を行う殿舎数やその「様躰」が決められる。造営費用には、神宮工が担当する祭儀の費用等は含まれるが、臨時支出にあたる料材の運送費等は含まれない。

ところで、永禄６年の造営工事や、天正 13 年の正殿や東西宝殿等の造営工事では、従来からの手間請負が採用される。しかし、天正 13 年の造営工事の終盤にかけて行われた上記主要殿舎以外の工事では、手間賃と材料費の一括支給を受ける請負が、式年遷宮としては始めて採用される。これは、天正 13 年の造営工事が、永禄６年のように、工事の停滞期に禁裏等から造営費用の寄進を受けるといったような、造営費用の増額が見込めないことから、残りの殿舎については、手元に残った造営費用で工事を完成させるため、神宮工に手間賃と材料費の一括支給を行ったと考えられる。

（２）伊勢神宮では、天正 15 年(1587)８月の豊臣秀吉による大工職撤廃令にも関わらず、内宮では 16 世紀 70 年代の天正３年仮殿遷宮以降、外宮では 16 世紀 50 年代の永禄６年式年遷宮以降、頭工や頭代といった大工職に補任される工匠名や、その工匠が属した工匠家が知られ、下記の点が明らかとなった。

①１つの工匠家で複数の大工職を継承。
16 世紀後半から 17 世紀にかけて、内宮一頭代職と外宮二頭工職等をほぼ継承した久保倉氏。16 世紀後期から 17 世紀にかけて外宮一頭工職、また、16 世紀後期から 17 世紀初期にかけて外宮二頭代職と外宮三頭代職をほぼ継承した北(来田)氏。上記二氏よりも後発であるが、17 世紀前期から、内宮一頭工職と内宮二頭代職を継承した杉木氏があげられる。尚、久保倉氏は久保倉本家と岩渕久保倉家が知られ、本家が内宮一頭代と外宮二頭小工、岩渕久保倉家が外宮の二頭工と二頭小工及び内宮一頭小工の各大工職を継承し、久保倉氏一族で、伊勢神宮の内・外宮大工職を複数所持する。

②16 世紀以前から続く工匠家により大工職が継承。
13 世紀初期から 17 世紀にかけて外宮三頭工職を継承し、14 世紀末から藤井姓を名乗った工匠家。また、姓は不明ながらも、15 世紀後期の文明年間から、16 世紀後期の天正年間にかけて内宮一頭工職や内宮三頭工職をそれぞれ継承したと推測される工匠家。

③16 世紀後期から 17 世紀にかけて大工職を継承した工匠家。
内宮三頭工職を継承した坂氏、内宮三頭代を継承した梅屋氏、外宮一頭代職をほぼ継承した谷氏があげられる。

上記以外の工匠家では、売却等の理由によ

り大工職が他家に移動する。中でも、内宮の四頭工・二頭代・四頭代の各大工職は、17 世紀に他家へ売買されたことが史料上確認できる。

尚、伊勢神宮の内・外宮の頭工・頭代において、内宮一頭工以外は、天正 15 年前後において同じ工匠家により大工職が継承される。そのため、天正 15 年の大工職破棄令は、伊勢神宮の頭工・頭代においては実効性を持たなかったといえる。

（３）北野天満宮では、13 世紀末から 17 世紀にかけて、建築工匠に関する史・資料が残存しており、それら建築工匠の人数の変化、そして、16・17 世紀における大工職の継承、特に 17 世紀では岩倉家と弁慶家による大工職の継承の実態について検討し、以下の点が明らかとなった。

①北野天満宮では、13 世紀末から 15 世紀末にかけて、４人の工匠に禄が支給されたことが想定される。おそらく、その４人の中の最上位者が「御大工職」を継承したのであろう。

②16 世紀では、大工職に新たに「棟梁職」が加わる。16 世紀初期では、「左衛門」系の工匠家が両大工職を所持した可能性があり、16 世紀中期以降は、「棟梁職」のみを弁慶家が継承する。この「左衛門」系の工匠家は、16 世紀を通じて御大工職を継承するが、この工匠家自体、15 世紀にまで遡る可能性もある。

③17 世紀では、大工職の名称としての「棟梁」は見出せず、「北野御大工職」に統一される。この「北野御大工職」は、慶長年間より 17 世紀を通じて、岩倉近江家と弁慶家により代々継承される。岩倉家は、慶長 17 年に大工職を取得し、宗安→政闊→鈴木（近江）太郎兵衛為政→鈴木太郎兵衛政重→政慶→ささや五郎兵衛→木子勘右衛門伊重へと継承され、宗安以下の三代は「木子近江」とも呼ばれる。一方、弁慶家は上述したように 16 世紀中期より北野天満宮の「棟梁職」を継承した工匠家であり、17 世紀全般を通じて「北野御大工職」を継承する。

④北野天満宮では、中世において、大工職取得に関する相論が生じると、工事が遅延もしくは中断した。ところが近世では、例えば慶長年間では公事に関して工匠間で相論が生じても、豊臣秀頼縁故の建築工匠が代わりをつとめる。また、寛文年間の遷宮等では、大工職を所持する工匠に代わり「入札の大工」が工事に関係する儀式を執り行う。そのため、大工職は、中世においては工事の施工権を伴うものであったが、近世、特に 17 世紀後半期にいたっては、工事施工に関しての優先権は認められず、あくまでも名目上のものであった可能性が高いといえる。

以上のように、本報告書では、伊勢神宮と北野天満宮を中心に論じたが、この他にも東寺等においても大工職が特定の工匠家により継承されたことが確認できた。しかし、史料収集や分析に手間取り纏めることが叶わなかった。今後は、これら内容の更なる深化に努めるとともに、これら建築工匠が手がけた遺構を調査し、建築工匠の作風といったものまで論及したい。そして、近世の建築界の動向を、中世の建築界の動向とともに、通時的に把握したいと考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①浜島一成、片桐正夫、頭工と頭代の系譜について　－16～17 世紀における伊勢神宮の工匠組織に関する研究 その１－、日本建築学会計画系論文集、査読有、74 巻、2009、2071－2077

②浜島一成、永禄６年と天正 13 年の式年遷宮について－中世伊勢神宮の造営組織に関する研究 その４－、日本建築学会計画系論文集、査読有、73 巻、2008、1077

〔学会発表〕（計５件）
①浜島一成、片桐正夫、16～17 世紀における神宮工の系譜について その３ 小工の系譜と久保倉氏について、日本建築学会、2009 年 8 月 29 日、東北学院大学
②浜島一成、片桐正夫、16～17 世紀における神宮工の系譜について その２ 外宮の頭工について、日本大学理工学部学術講演会論文集、2008 年 11 月 29 日、日本大学
③浜島一成、片桐正夫、16～17 世紀における神宮工の系譜について その１ 内宮の頭工と頭代、日本建築学会、2008 年 9 月 18 日、広島大学
④浜島一成、片桐正夫、天正 13 年の式年遷宮について－中世伊勢神宮の造営組織に関する研究 その 8－、日本大学理工学部学術講演会論文集、2007 年 12 月 1 日、日本大学
⑤浜島一成、永禄 6 年の外宮式年遷宮について その７－、日本建築学会、2007 年８月 29 日、福岡大学

６．研究組織
(1)研究代表者
浜島　一成（HAMAJIMA　KAZUNARI）
日本大学・理工学部・研究員
研究者番号：80451318

(2)研究分担者
片桐　正夫（KATAGIRI　MASAO）
日本大学・理工学部・教授
研究者番号：50059515
（H19）

(3)連携研究者
片桐　正夫（KATAGIRI　MASAO）
日本大学・理工学部・教授
研究者番号：50059515
（H20）
大川　三雄（OHKAWA　MITSUO）
日本大学・理工学部・教授
研究者番号：80096784
（H21）